



あすぴあ通信



発行：小平市民活動支援センター あすぴあ

小平市 公民館

市民学習奨励学級

知っていますか

1面：知っていますか
市民学習奨励学級

2～3面：あすぴあ登録団体の紹介

4面：講座予告、本の紹介 ほか



ガイドブックも
あります

小平の公民館が毎年行っている、市民学習奨励学級を知っていますか？ 昭和50年から今年度まで43年も続いて市民の学習活動をサポートする、日本でも珍しい制度です。

対象は小平市内で活動している団体。自分たちがやってみたい講座や講演会などに必要な費用や場所を、公民館が支援します。企画の内容は市民の学習を深めるものであれば自由で、音楽や美術などの分野でも応募できます。

始まった当初の窓口は社会教育課。サークルや講座でさらにその学習に興味を持った人たちが、自分たちで何かをしたいという気持ちを後押ししようと考えたのが、制度誕生のきっかけでした。公募による受講者と一緒に学習や文化活動のための講座や講演会の企画・運営ができることです。応募条件は5人以上の市民が集まった団体で、実施条件は、期間が応募年度内で、場所は市内各公民館か公共施設、受講者は市報やチラシ等で広く公募することです。



条件ばかりを並べましたが、公民館からの支援は、会場の確保、市報への掲載、チラシ用紙の提供など広報のサポート、資料などの印刷、準備から実施までの相談、支援や助言、講師への謝礼となります（上限額 22,000 円）。

とにかく企画は立てても実施するまで、初心者にとってはいろいろ越えなくてはいけないハードルがあるので、それを公民館が様々な形でサポートします。つまり市民と公民館は、講座や講演会を実施するために協働で取り組むということです。こうすることによって、市民は企画した講座や講演会を開催することができ、その経験が仲間を増やし、活動の充実につながります。実は市民学習奨励学級の本当のねらいは、このサークル活動の仲間を増やし学びの輪を広げていくところにあります。

現にこの制度の魅力を知って、応募者の数は年々増えていて、平成28年度には競争率は約3倍に。おかげで、その年は実施団体が10から12に増えました。学びを通してサークル活動に参加する市民を増やしたいという公民館の努力は着実に形になりつつあるようです。

市民に広く知ってほしいテーマを自分たちが選んだ講師で、自分たちだけができるオリジナルな企画を形にするための公民館の支援。利用する価値があります。来年度はあなたの団体もチャレンジしてみませんか？（笹尾）



Photo by Toga@CoderDsjp Kodaira

コーダー道場こだいらの市民学習奨励学級の様子